

「国宝級」玉虫の馬具 福岡・船原古墳



船原古墳から出土した玉虫が装飾された馬具（左）。
右は復元模型=13日、金子淳撮影

福岡県古賀市の国史跡・船原古墳（6世紀末～7世紀初め）で出土した多数の馬具の中に、玉虫の羽を組み込んだ装飾があることがわかった。市教育委員会が13日発表した。玉虫を使った装飾は法隆寺（奈良県）の玉虫厨子など国宝にみられるが、馬具に施されているのが確認されるのは初めて。市教委は「国宝級の価値がある」としている。

今回玉虫の羽が見つかったのは、馬の腰につり下げる「杏葉」という装飾（幅約10センチ）。植物の葉の文様を透かし彫りにしたハート形の金銅板と土台の鉄板の間に、20枚ほどの玉虫の羽が敷き詰めるように挟み込まれていた。羽は黒く変色していたが、市教委は模型とコンピューターグラフィックス（CG）で元の姿を復元した。（今井邦彦）